



令和8年度(2026年度) ▶▶▶ 令和12年度(2030年度)

概要版

しもやまスマイルプラン

《後期プラン》

しもやまスマイルプランって何？

この「しもやまスマイルプラン」は、私たちが住む下山を子どもたちの世代に引き継ぐために、将来の下山について考え、描いた未来の姿を実現するための行動計画です。



下山の5年後の将来像



子どもの声が聞こえ、
笑顔で暮らせるまち しもやま



みんなでめざす下山のまちづくりの方向性

下山に関わる人を増やして活力あるまちづくり

- 「定住人口」の減少を抑える取組にチャレンジします。
- 観光客などの「交流人口」と住民との交流の機会を積極的につくります。
- 地域活動への参加者の増加をめざして、「関係人口」を増やします。

住民主体の地域活動で持続可能なまちづくり

- 住民一人ひとりが地域の運営を考え、住民による地域活動を次世代に引き継ぎます。
- まちづくりに関する地域内の団体が、そのあり方や活動内容を見直し、より適正な運営に努めます。
- 自治区と地域の関係団体、行政との連携を強化して、地域活動を活性化させます。

「安心感」と「わくわく感」が実感できるまちづくり

- 子どもから高齢者まで、誰もが安心して生活できる環境をつくります。
- 下山を盛り上げるために「やってみたい」ことを実現できるように、みんなで応援する機運を醸成します。
- 地域外からの来訪者が、親しみやすく、楽しめる環境をつくります。

分野別プラン

「分野別プラン」では、定住・移住、子育て・教育、健康・福祉など以下の11の分野について、下山全体で取り組むべき施策と具体的な事業を定めています。

主に下山地域まちづくり推進協議会の構成団体（里楽暮らししもやま会、下山商工会、各自治区など）や豊田市下山支所などが中心となって、下山全域の課題解決に貢献する柱となる施策を推進します。



後期プランでは、以下の4つの項目について、重点的に取り組んでいきます。

項目	後期プランで取り組む方向性
定住・移住	「住みよさ」と「定住意識」の向上 生活利便性の向上と定住・移住施策の充実により、特に若年層・子育て世代の住みよさの向上を図ります。
観光	次世代が地域に誇りをもてる観光まちづくり 体験プログラムの開発や環境整備による地域資源の磨き上げや、戦略的な情報発信を関係者が主体的に取り組むことで観光まちづくりを推進します。
農地保全	省力的な管理手法の導入と新たな担い手の確保 耕作放棄地の解消に向け、地域外人材も含めた担い手の育成や、粗放的な農地管理（手のかからない管理）を推進します。
基盤整備	生活道路の計画的整備と安全対策の推進 住民生活に直結する道路の整備・補修を着実に進めるとともに、交通量変化に対応した安全対策を行います。

しもやまスマイルプラン《後期プラン》（概要版） 令和8年3月

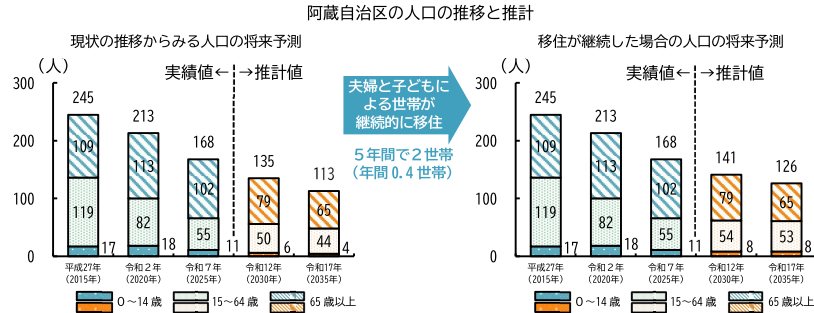
発行：下山地域まちづくり推進協議会（事務局 豊田市役所地域活躍部下山支所）
TEL 0565-90-2111 メール shimoyama-shisho@city.toyota.aichi.jp



※本編は豊田市ホームページからご覧ください。

阿蔵自治区の人口データ

- 阿蔵自治区には、80 世帯、168 人の方が住んでいます（豊田市住民基本台帳、令和 7 年 10 月 1 日現在）。
- 令和 12 年には 135 人と、今後 5 年間でさらなる減少が予想されていますが、継続的に若い世代が移住すると、人口構成の回復が期待できます。



阿蔵自治区の5年後の将来像

- 組運営やお役の見直しを行いながら、地域の活動が適正な規模で実施されています。
- 様々な活動グループや産直「かえで」の運営も続いており、住民同士のつながりが続いています。
- 念仏踊りなどの地域の文化が次世代に引き継がれています。
- 地域の文化や魅力を地域外の人にも発信することができ、文化継承や保存に携わってくれる関係人口が増えています。
- 空き家や空き地、遊休農地は住民の協力により活用されたり、新しい住民に提供されたりしています。
- 農地や山林は、住民同士が協力したり、地域外の人や企業に協力してもらったりするなどで守られています。
- 阿蔵の情報や暮らし方が、阿蔵への転入者や転入を希望している人に地域から伝えられています。
- 阿蔵わくわく広場が整備され、地域内外の人が交流できる場所を目指します。



阿蔵自治区の今後5年間の取組

重点取組

● 取組1:合併後の組運営について段階的に検討を進める

阿蔵自治区では、組の役員の担い手が少なくなるなど組の運営が難しくなってきたことから、阿蔵自治区を1つの組として合併しました。今後、1つの組として運営していただくため、役員や神社、祭礼、共有財産の今後のあり方についての検討や合意形成を段階的に進めていきます。また、敬老会など皆で集まる場を通じながら住民との情報共有を図っていきます。

● 取組2:住民のつながりを強化する(地域活動の継続)

阿蔵自治区では、地域の活動を通じた住民同士のつながりができています。人口が減少する中でも、産直「かえで」や念仏踊り、三番叟など、現在行われている地域活動が継続することができるように、地域外を含めた協力者(関係人口)を増やします。こうした活動を通じて、より強い住民のつながりを作るとともに、自治区の伝統文化を継承していきます。



● 取組3:関係人口・移住者を増やす(空き家・空き地活用、受け入れ体制づくり)

阿蔵自治区に新しい住民を受け入れていくため、地域での声かけによる空き家の把握や活用をするとともに、各家で将来の土地や住宅について考えたりしていきます。あわせて、阿蔵の暮らしについての情報を、里楽暮らしもやま会や下山支所、地元住民から移住者に伝え、移住者や関係人口の受け入れを進めます。

令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)	令和12年度 (2030年度)
1: 合併後の組運営について段階的に検討を進める				
組合併の周知・地域住民との共有	お役の見直し検討	組費などの整理	地域行事・住民交流会の検討	
2: 住民のつながりを強化する(地域活動の継続)				
「かえで」をきっかけとした関係人口の増加・かえで会員数(生産者)の増加				
念仏踊りのデジタルアーカイブの作成	お祭り等の協力者を増やしていく方法の検討			伝統文化の継承
阿蔵わくわく広場の整備と活用				
3: 関係人口・移住者を増やす(空き家・空き地活用、受け入れ体制づくり)				
地域での声かけによる空き家・空き地の情報の把握・整理	空き家・空き地の提供の活発化 空き家・空き地情報バンクの活用			
関係人口・移住者の受け入れ体制づくり・交流活動の活発化				
里楽暮らしもやま会や下山支所、地元住民で移住者に暮らしの作法の話をしていく				